

188

特246

832

木崎龍尾述

風土と民族性に就て

65

日本協会發行

1



0055022-000

特246-832

風土と民族性に就て

木崎龍尾・述

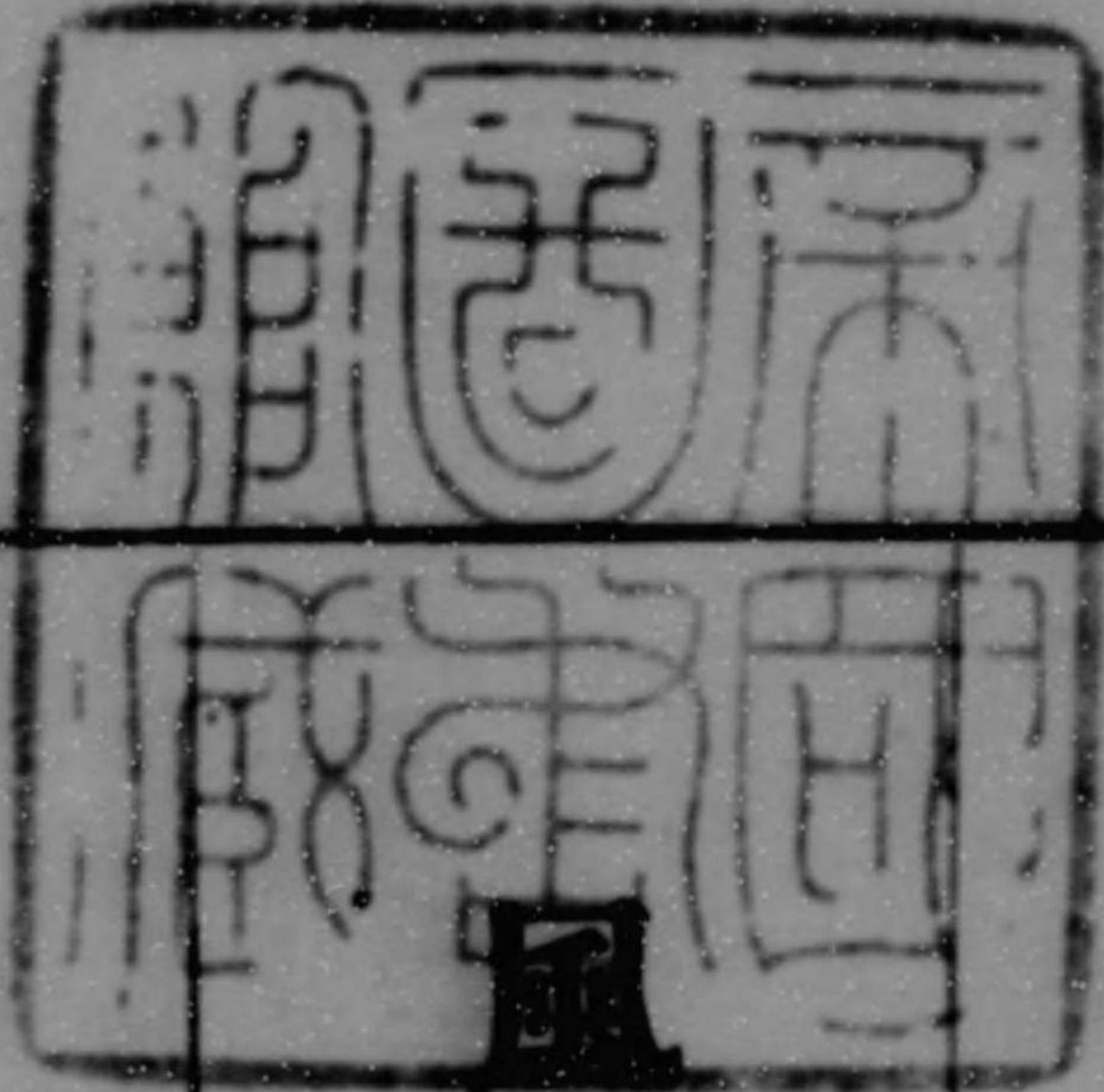
日本協会出版部

昭和14

AIE

この著作物は、著作権者不明のため、著作権第67条の規定に基づき、平成12年3月14日付で文化庁長官の裁定を受け使用するもの

特296
832



木崎龍尾述

風土と民族性に就て



日本協會發行

木崎先生の著述にかゝる「西洋主義か日本主義か」と呼
年九月本會より發行、會員各位に既好評を博して計りま
すので、先生に就ては既に御承知の方も有らざるが、先
生は現代日本に於ける有数の民族學者であり、兼ねて地理
學界に於ける權威であります。

本書は去る二月二十七日日本會議會に於ける先生の講演
速記を上梓したものでありますが、先生独自の研究になる
本論は、當時本會者に多大の感銘を興へ、其の後、多数
各位より質問を寄せられ、本書の發行を希望せらるゝ聲が
延んでまいりましたので、本會は會員各位の御期待に副した
め、特に先生に速記稿の校閲を御依頼し全面的に補修して
頂きましたので、本書は内容に於て講演よりも一層充實完
備したものと成りました。

是に先生の御厚意を深謝申上ぐると共に、會員各位の御
懇望に答へらんことを御誓ひ致します。(編者)

目次

- 一、國體運動の法則……………一
- 二、地形的に見たる日本とイギリスの
國體……………二
- 三、自由主義國として生成發展せるイ
ギリス……………三
- 四、日本民族のみが創設せる神社……………四
- 五、自然が民族に與へたる影響……………五
- 六、神國を水を対象として培つた日本
精神……………六
- 七、國水の影響を受けし支那の民族性……………七
- 八、シベリアの何の影響を受けしロシア
民族性……………八
- 九、國體論を行く民族性……………九
- 十、天國地民が日本民族に與へし影響……………十
- 十一、神を祭る精神と日本民族の思想……………十一
- 十二、世界に冠絶せる日本國體の神聖性……………十二
- 十三、結語……………十三

風土と民族性に就て

木崎龍尾述

一、回轉運動の法則

話は頗る古いことから始まるのでありますが、會て一七二七年に死にましたイギリスの物理學者ニュートンが、死ぬ前に回轉運動體に與へられました法則がございます。それは獨樂の法則でございまして、定まつた中心に依つて回轉する運動體が回轉すればするほど、速力が速やければ速やいほど、獨樂のやうに眞中が賑らんで、結局分離する筈である、かう云ふ事が物理學上の理論として信じられたのでありますが、これがわれ／＼に住んで居ります地球に致しまして南北極を中軸として會から回轉してをるとすると、當然眞中が賑らんで分離してゆくと云ふやうな話になるのであります。併し何分相手が大きいものでありますから直にそれを實踐すると云ふこと

が當時に於いては出来なかつたのであります。丁度六十餘年間そのまゝでありましたが、あのとを一つ實驗してみたいと云ふやうなことで、北のラブランドと南のベルーで測量が實行されまして計りました結果が、三百十分の一だけ真中が脹らんでをると云ふことが判かつたのであります。これで大變にフランスでも驚いてデラレブルが計かる、ドイツのベツセルも計かる、イギリスでもロンドンの天文臺長のクラークが計かると云ふやうなことで、いろ／＼變つた値が出たのであります。結局真中が脹らんでをる、われ／＼の住んでをる地球の真中が脹らんでをる、確かに圓いものではない、ニュートンの言つた回轉運動體の理論は實際であると云ふ事に決まつたのであります。

さう致しますとそれは何時頃から脹らんだかといふことが問題になるのであります。これは何を申しましても地球の上に生物が生まれるやうになつてから今日まで十八億年と計算されて居りますが、この十八億年の間のどういふ時期が一番脹らみ方が多かつたかと申しますといふと、その中の一番最近では地質學上の新世代即ち第三期の初め、それが二千五百萬年から三千萬年ぐらゐ前の時代が一番脹らみ方が大變であつたのであります。丁度此の時代に北の方から南に地殼が滑つて来る、それから南の方からまた中央に滑つて来る、さうして赤道を中心として南

北約四十度間に亘つて非常に脹らみが多く生じたかと考へられるのであります。アジア洲ではヒマラヤ山が海の中から持ち上がつて来る、ヨーロッパ洲ではアルプスが海の中からもく／＼と浮き上がつて来る、またわが千島、北海道、樺太、日本列島等も皆この時の作用を受けまして、地球の上に現はれて參つたのであります。殊に一番ひどく作用が猛烈に顯はれたところがわが大八洲日本であります。

この日本はそれまではアジア大陸の一部として僅かに火山活動をしてをつたのであります。この大造山運動に依りましてオホーツク海が陥没し、日本海が陥没して、さうして大八洲といふ千六百餘島の島になつたのであります。それで現在もうその運動が止まつてゐるかと申しますとこの回轉運動體といふものはやはり吾々が日々朝太陽を迎へ夕に太陽を送るやうに、現在も依然として止まつてゐないのであります。そしてこの運動はやはり續けられてをります。日本もその作用を受けましてじり／＼日本海が大きくなり、オホーツク海が大きくなつて、日本列島は太平洋の洋心に向つて徐動しつゝあると考へられて居ります。これは一九三三年であると存じますが僅か數年前に日本の天文臺で實驗致しましたところによりますと、六年間に約二十七メートル移動して居ります。六年間に二十七メートルの移動でありますから僅かな數ではあります。これ

が何萬年といふことになるのかなり大きくその結果が現はれて参ります。どういふ風に現はれて参るかと申しますと、それは例へば辨慶が安宅の關あたりで六法を暗んで頭張つたやうなところは、今日では遙かに海の中にもぐつて居りまして、どの位遠方になつて居るかと申しますと、一年四メートル半として約六百年二千七百メートル程彼方になつて居るのであります。そんな實驗からつまり日本は太平洋に向つて徐動してゐるといふことが云へるのであります。

二、地理的に見たる日本とイギリスの相違

かういふ風に非常に力強い作用を受けた日本と致しますと、あらゆることが世界の狀態と違つてをります。例へば海で云へば波のやうな形で地殻といふものがうねりを生じます。このうねりは非常に大きいのであります。うねりが大きいから山が高いのであります。山が高いのみならずこのうねりが落込になつた處に地震が発生致すのであります。また波の頭になつた所に火山の噴出が起るのであります。さういふ風に地震の構造線といふものと火山の噴出線といふものが交互に錯綜してゐて、島が小さな割合に山脈といふものが非常に高い、かういふ風な土地の出來方です。勿論こゝにまた重要な問題が起るのであります。それは地球が西から東に回轉す

る運動に連れまして氣壓といふものゝ場所が定まるのであります。つまり夏と冬とでは太陽の直射する場所が異なるために低氣壓の發生地と高氣壓の發生地が定まるのであります。而してこれらの高い氣壓と低い氣壓との中間に恐ろしく高い山脈を有つてゐる日本が横たはつてをります。この氣壓傾度の中間といふ事は略で云へば板道といふやうなものであります。この急坂の途中に非常に高い山を持つてゐる日本が横たはつてをるといふ事になるのであります。随つて日本は四圍環海で廣い海が東西南北にあるために水蒸氣を多分に含んだ氣流が、坂の途中に横たはつてゐる高い山脈によつゝかりそこに雨が非常によく降るといふ現象を呈します。

かういふ風な出來方で日本は出來てをるのであります。同じ島國でありましてイギリスに参りますと全く態が變つて参ります。イギリスも島であるといふ事は同じであります。自然が斯やうに強く顯はれてゐる土地ではなく、地内力が強く活動した舞臺としての出現ではなかつたのであります。イギリス島はヨーロッパの大陸の殘餘島嶼として現はれてをります。而も日本は二千五百年も前からこの地球の表面に現はれた島であります。イギリスは先づこの世の中にお目見得したのは九千年前といふことが云へるのであります。何故九千年前に於て世の中にイギリスの島がお目見得したかと申しますと、これは氷河期といふ時代があります。この氷河期と申

しますのは非常に雪線が低下致しまして、總て地球の全面が多くの氷原で埋まつてゐたやうな時代があります。ヨーロッパの今のスカンデナヴィヤ半島の上にも約二千フィートもあるといふ厚い氷原が横はつて居つた時代があります。そしてこの氷河が解け出しましたのは約四萬年ほど前でありまして、解け終つたのが約九千年ほど前でありまして、さうしてこの二千フィートもある氷の山が解け出し、岩の間、山の間にも入り込みながら山を割り岩を割つて深淵を穿つて融け込んでいつた名残が今のノルウェーの峡湾やフィンランドの多湖地であります。この氷原の分離に當りましては周圍の地は恐ろしい洪水を受けたのでありまして、この近所にもありましたイギリス島などは三萬年の間に前後六回も海の中にもぐらされて仕舞つたのであります。そしてこの大氷原は漸く九千年前にはじめて分離したつたのでありますから、イギリスがはじめて世の中にお目見得をしたといふのが九千年前だといふことが云へるのであります。

さういふ島でありますから、日本の島といふものと比較致しますといふと、イギリスは全島所開氷河が運んだところの礫布土といふ軽石をまぶつたやうな土壌、さういふものが全面に被さつてをります。そこでかういふ一つの地理的要因といふものが、民族に對してどんな影響を與へ、それが民族精神の發展、民族文化にどんな影響を與へてゆくかといふことを、日本とイギリスと

を對照致しまして暫くお話し申上げてみたいと存するのであります。若しこの議論が諸君に受入れられますといふと自然といふものと、自然に培はれる民族の習性といふものが如何に因縁が深いか、また民族の文化とか民族意識といふものが如何に自然と密接不離のものであるか、案いて日本精神といふもの、眞實でも自然から立派に引き出す事が出来るといふ事が證明される事になるのであります。

三、自由主義國として生成發展せるイギリス

イギリス王國の島は全島が只今申しましたやうに氷河が運んだ礫布土と申します多孔隙のレス即ち軽石を砕いてばらまいたやうな土地でありますから、太古から農耕といふものは全く渡落致して居ります。而して今日なほ且つイギリスではまだ輪作農業といふものを行つてをります。日本では一年一度米や麥の種れないところは殆んど全國にありません。四國、九州等は二毛作でありますし、臺灣の臺中州の如きは一年中バナ、が山と云はす野と云はす年中葉れ下がつてをります。イギリスは二年に一度麥が種れるといふところはいいところでありまして、三年に一度作物が種られるところが耕地面積の四十五パーセントを占めて居ります。さういふところでありま

して、古代から既に農耕生活といふものは渡来致してをりまして、併も剛が足りないために温氣を多く必要としない小麦、馬鈴薯のやうなものより生育し難い土地であります。斯んな瘦せかけた土地に西暦四三二二年にドイツのゲルマン民族の發展に依つて壓迫されたところのアングルとサクスとユートの三民族がウエーゼル河の下流から海を越えてこの島に渡つて来たのであります。その時は既に先住民族としてのブリトン族がをり、スコットランドの方面のハイランド山地一帯にも先住民族がをります。そこで彼等は争ひまして勝ちました。

ところがもう少しいゝところだらうと思つてゐたが軽石をまぶつたやうな非常に悪い土地だといふことを初めて知つた。わざ／＼海を渡つて来たが、見ると聞くとは大變な違ひで、是ではどうも農業生活を営む事が出来ない、食糧を充分得る事の出来る生活を営むには無理がある。小さい渡木の林ばかり至る處にある、土地は瘦せてゐる、剛も少ない、今こそ地下の埋藏物が全土の繁榮を左右してゐるが、昔は何と云つても、作物が唯一の生活の資源でありまして、作物を得る土地が唯一の基本であります。そこで彼等は土地の獲得に狂奔しなければならぬ結果となつたのであります。それで土地の獲得が生活糧と密接不離のものとなつて泥巴となつて戦さをしなければならぬ事になつた。さういふ風なところでありまして、剛もこのところは土壌が悪いばかり

りではありません。地球が西から東に旋轉する運動に連れて赤道附近の非常に暖かいメキシコ灣流といふ海流がアメリカ東岸を流つて北極海の方に逃んで参りますとイギリスに突き當るのであります。さうして暖かい海流が五十度以北の寒海に突突つ込んで行く事のために生ずる霧の現象が頗る憂鬱な現象を呈するのであります。霧の都と云はれるロンドンに於きましては一年中晴天の日は九日しか無いと計算されてをります。

斯の如き農務と粗悪な土壌のためにイギリスは如何に苦しんだかといふことは、千二百年間といふ永い民族自身の相剋史が明らかな事實を示して居ります。當時沙翁の書いたテンベストといふ戯曲がありますが、これは沙翁が六十二歳の時に書いた戯曲であります。六十二歳と申しますと誰しも酔いも甘いもよく味はつてをる時代でありまして、沙翁もまた世の中を相當達觀してをる時に書いた戯曲であります。その中に國王と侍従長と對話せしめて非常に深い眞實とユーモアに富んだ警諭を以つてこんな事を語らして居ります。國王は「どうも食ひ物だけは満足に得られるやうなところの王様になりたい。食ひ物を得んがため相争つてをると云ふことはまことに耐へ難い、衣食だけは満足に得たい、さういふ島の國王になりたい、せめてたゞ食はんが爲めに鎗や鎧、鐵砲を用ふる國の王様はつく／＼嫌だ。」と云つて居ります。すると侍従長は「そんなとこ

ろの王様は全く何もすることが無くなるだらう」と云ふやうに云つて居ります。結局國民大多數の生活苦といふものが基となつて壓力に對抗する反響が起こる事になつて、王權といふ治者側と民權といふ被治者との間に永い相剋史が演ぜられたのであります。それがだん／＼ひどくなるに従つて各方面に人殺しが出来る、泥棒が多くなる、強つ搦ひが多くなる、さういふ者が到る處の牢獄に充ちて来る、さうすると國民は働いても／＼なか／＼容易に食へないに拘はらず、牢獄に繋かれてゐる者共が政府によつて生活の安全を維持されてゐると云ふ運命はない。すべからず島外に運ぶ可きである、と云ふやうな罪人は海へ、罪人は島外への聲が次第に國民運動化する、政府の者も仕方が無いから彼等を先づ集めて植民政策を行ふ、さう云ふ風でカナダも、アフリカも、南洋も罪人の遠島地として先づ植民が行はれ、そこに新たなるイギリスの歴史が發展して參つたのであります。

ひるがへつて顧みますと新やうな相剋運動がだん／＼發達して一方では古來の王權は神聖なりとする王權黨が發達し、また他方には被治者階級たる人民側には議會黨と云ふものが發達して、それが正巴になつて戦さをする、國民は自分たちの生活のため、自由のため、權利のための運動が次第に強化され、種々な大騒ぎをする。偶々スコットランド討伐費を議會に提出したが議會は

これを拒絶したことに端を發しまして王權黨と議會黨と正面衝突を起こして、それが戦さに發展する。議會黨を率ゐたクロムウエルが王權黨をネースビーと云ふ關ヶ原で粉砕して、王を捕へてロンドン塔に幽閉し國民裁判にかけ「王は國民の公敵なり」と宣言を下だしてこれを断罪の刑に處する。さう云ふ風なことはいよ／＼スコットランドを併合してこゝに立派な議會政治を行ふと云ふことになりましたと云ふと、そこに足りないものがある、王權が足りない。さて王權をどうするかと云ふ問題になつて考へると、今迄の王權はもう盡り／＼である。王權は何でも國民の云ひなりになるやうな王權をつくらなければならぬ。その時政治家達は非常に考慮して、これは毒にも薬にもならないやうな人を選ぶより仕方がないと云ふことでワイポール首相がドイツのヘノーヴァー公に交渉致しました。さうして是非イギリスの王權になつて故きたいと景仰の意を致したのであります。その時これに對しまして、ヘノーヴァー公は何と云つたかと申しますと、「自分がイギリスに行きましてもイギリスの言葉を知らない、イギリスの國情も知らない、この言葉も知らない國情も知らない私がイギリスの國王になつて赴任すると云ふことはどうも自分としては出来ぬぬ。」かう云ふ返答をされたものであります。さうするとワイポール首相は「いや、イギリス人は皆自分の國は自分で統治してゆくと考へて居ります。従つて國王に於かれましても、

イギリス人の有つてゐる投票と云ふ統治權を通して、その國を統治する機關になればそれで差支へありません、随つて當分の間は唯だサインをして置きさへすればそれで差支へないのであります。」と云ふやうな意味で、今日の王室の御祖先たるジョージ第一世をお迎へ致しまして、ワイポール首相が二十年間責任内閣制を執つたのでありまして、それが今日イギリスの責任内閣制の源をなして居ります。

かう云ふことを考へますと云ふと、今日のイギリスの議會制度と云ふものはまことに國民の自由と權利と云ふものを極度に高調致しますと共に、その反對に國王の權力と云ふものを極度に防遏して、それに依つて獲得したところの一つの自由の精神がギツリつまつてゐるところの憲法がイギリス憲法の眞髓ではないかと云ふ事が考へらるゝのであります。かう云ふやうなことを考へますると云ふと日本とは少しわけが違ふ。いきなりこの國で發達したところの憲法の型といふものを日本に持つて來ましても、なんとなく借り物のやうではないか、例へばこの憲法を活かすに致しましても、日本固有の魂を吹き込んで、三千年の身丈けに合ふやうにしなければ皆く活用が出来ない。政治家も専門家ももう少し精神的に考へる必要があるのではないかと云ふ風に考へられる點があるのであります。

四、日本民族のみが創設せる神社

御承知の通り日本は神國と申します。これは北島綱房が神皇正統記の冒頭に書きましたために日本が神國になつたのではないのであります。まだ古く昔から神國と云ふ字が使はれてをります。例へば欽明天皇の十三年に佛教と云ふものが始めて日本に入つて参りました。今から丁度千三百年前でありますが、その佛教が渡來しまして三十二年程経ちまして忽ち佛教が宮中に採用されるまでになりました時に、たしか用明天皇二年と思ひますが、物部守屋、中臣鎌美がそれを介謀め申上ぐる上奏文の中にかう云ふ言葉が使はれて居ります。「日本は神國なり、何ぞ國神を廢して、外國の神を尊ぶ可きや」とかう云ふことを申してをります。随つて神國であると云ふことの歴史はかなり古いのであります。また一方地理の方から申しますと民族國家の中にはそれぞれ特有の文化景觀と云ふものがござります、そしていろいろ多くの文化景觀の中でもまた特殊な型を有つてをるものがありまして、日本の神社のやうなものは先づ全く世界に類例のない特殊の文化景觀であります。或る人類學者の話に依りますと云ふと、全く違つた種族として分けられるものは約六十八ある、而して六十八の人類のつくつた獨立國は七十以上ある、この六十八の民

族國家と云ふものがそれ／＼興つた文化的景観、いはゆる文化を持つてをりますけれども、何處にも無いものが日本の神社である。六十八の各々の民族が誰も創らへ得なかつた一つの文化景観が日本の神社でありまして、この神社は日本に約十一萬八千二百ほど分布してをります。伊勢神宮、明治神宮、或ひは靖國神社は大きな神社で、その外到る處に十一萬八千二百の神社が分布致してをります。

この日本の神社と云ふ特殊な文化景観といふものは何をわれ／＼に語るかと申しますと、これは日本民族が三千年來不眠不休で創造したところの一つの心的産物であると云ふ事はつきり申し上げることが出来るかと存するのであります。決して日本民族が偶然に創らへたものではない、神社が偶然にひよ／＼と出来たものではありません。日本民族の興亡に昇り下りた一つの心から創造したところのものであると云ふことがはつきり云へるのであります。然らば外の民族が誰ひに創らへ得なかつた一つの神社と云ふ文化景観を何故に日本民族に限つて、日本人に限つてこれを創造し得たかといふことが大きな問題の焦點になつて参ります。これに就きましては私が先きほど申し上げましたやうに民族性と云ふものが如何に自然の大きな影響を受けてをるか、自然が如何に民族意識、民族精神に影響してゐるか云ふことをこゝで一つ立證致したいと存するので

あります。

五、自然が民族に與へた影響

岩を水で溶解して造つた日本神社

日本はもと／＼二千萬年若しくはそれ以上前に地下三十哩も下の方から噴き上げて来たやうな岩漿で満たされて居ります。即ち火成岩であります玄武岩、流紋岩、安山岩、花崗岩と云ふやうな岩が日本に全面的に分布致して居ります。さう云ふ風な岩は皆地球の内部から持ち上がつて来た岩でありまして、これらの岩漿が固まつて骨髄をなしてゐるところが日本であります。これ等の岩は悉く結晶質の岩でありまして、如何に砕かれても砂のやうになつても水に溶解し切らないのであります。云はゞ水晶を粉にしたやうなものでありますから、如何に雨にたゞかれ、陽にさらされても水にひたされずと直ぐ沈澱致します。斯やうな岩で日本全面が掩はれてをります。従つて雨が降り、川が増水し、その勢ひで岩石を溶かし一時は濁りましても、明くる日は岩層は側から沈澱致しまして、依然として常に清潔な水が到るところの山間僻地を流れてゐると云ふ事になるのであります。

この水が清冽であると云ふ事、珠玉のやうなせゝらぎが日本中の山間僻地を流れてゐると云ふ事は唯單に景色が良いとか客観的な自然美として價値づけられるばかりではなく、如何にそれが日本民族の清らかな心を培ふ契機となつてきたかと云ふ事は何の方面からも立證する事が出来ると思ふのであります。例へば山鹿素行先生は中朝事實の中に「中國の水土は萬邦に卓爾し人物は八紘に清秀なり」と云つて居られますが、清らかな水から清い心が培はれ、濁つた水から濁つた心が培はれると云ふ事は定に當り前の事でありまして、昔の人はそれを運命なしに直観力によつて洞察した事でありまして、日本人が三千年の間この清冽な水を對象と致しましてどんな心を培つて来たかと申しますと難かしい哲學的の理論は今日は省略しますが、第一に古事記を見ますと直ぐ納得の出来る問題であります。古事記の上巻に大體こんな事が書いてあります。

「ここに上ツ瀨は瀨道し、下ツ瀨は瀨道しと語りごちたまひて、初めて中ツ瀨に降り清きて遊ぎたまふ時に成りませる神の御名は」

と云ふ事で、人間の汚濁や穢を直して下さる、**水直見ノ神**、**大直見ノ神**、**伊豆能賣ノ神**と云ふ神靈を創造いたして居ります。つまり清らかな溪流と云ふ自然を契機と致しまして古代の人々が心の汚濁とし、また心の穢穢として無端に利己的な觀念、主我的な觀念、我執に執はれた觀念を取

り除くために神を創造したといふ民族心理の清澄な意識、良心的な意識といふものは定に驚く可き清らかさでありまして、爾もそれが神を創造し祭祀の觀念と渾然一體となつて**御手洗**、**口漱**、**禊**等の行事となつて居ります事を思ひますと、清淨正直といふ事が如何に大和魂の精華として發展して来たか、それが何に基くものであつたかといふ事が判るのであります。日本が斯やうに水が誠に綺麗であり、それがために汚濁を嫌ひ、利己心を嫌ひ、不正を極度に嫌ひ、「まこと」の心を最も尊ぶ道徳が培育されたのであります。支那の黄河などになりますと大昔から未だ嘗て澄んだ事のない濁流が渾々として流れて居るのであります。凡そ日本の水とは似ても似つかないものであります。これを思ひますといふと、これまた理窟になりますけれども、地理を御存じのない方に一應説明させて頂きます。

日本の影響を受けし支那の乾燥地

今の北支那の山西、陝西の山地の北西に亘つては約二千五百七十萬方キロと云ふ廣大もない廣い乾燥地と半乾燥地があります。乾燥地と申しますといふと湿度が無いところで、空氣に過りつ氣が全く無いところでありまして、御承知のやうに岩石と云ふものはどんなに硬くありましても、そこに若し湿度といふものが無くて太陽熱を受けますといふと、如何なる岩にでも龜裂を生じま

す。龜裂が龜裂を生じて更にそれがだん／＼砂礫になり、砂礫が更に粉末になりましてこれが天
空に舞ひ上がります。殊に二千五百七十萬方キロの廣い地域に全く湿度がないのでありますから
この地域の岩石は日々著々龜裂を生じて、それが砂礫になり、砂礫が更に粉末になつて
恰かもこゝが砂漠の製造所となるのであります。それが地球が西から東に旋轉する運動に連れて
風のために舞ひ上げられて東に送られて参ります。斯くして舞ひ上げられた黄砂といふ粉末が温
度に會ひますと其所で堆積が行はれるのであります。さういふ細かい粉末が何萬年となく自然に
堆積したところのものが山西、陝西一帶の山地でありますから、このところを流れる黄河といふ
ものは恰度お汁粉の固くなつたのを湯で溶かしたやうな川となるのであります。従つて黄河の
濁流といふものは六〇%の混濁度でありまして、水一斗に對して泥が六升餘りといふことであり
ます。而もこれは河ばかりがさういふ濁り方ではなく、山も悉くさうでありまして、風が吹けば
粉末が舞ひ上がる、黄塵萬丈目を捲ふといふ一つの奇觀を呈します。かういふところを朝に見、
夕に見て、この黄色いところの河で手を洗ひ顔を洗つてをるのでありますから、この濁りが自然
に人間の心理の中に深く喰ひ込んでゆくといふことが云へるのではないかといふことが考へられ
るのであります。

日本に於ては清冽な氣持が一つの良心の根柢を成してをりますが、支那にはこの清冽な氣持と
いふものが無い。支那の良心といふものと日本の良心とを比べて見ますといふとそこに大變な開
きがあります。例へば便所の手洗のやうなものがありません。それが綺麗なバケツだと食べ物を入
れる、水で洗ひさへすれば綺麗な筈だといふのであります。支那人はさういふものに對して無関
心です。この中へいろ／＼なものを入れておきます。日本人にはそれは出来ませぬ。多分美徳の
觀念が連續してゐるかわないかといふ事にもなりません。寧ろ美徳の觀念が全然根柢から遠ふ
のではないか、國家象に對してはよしんば大差はなくとも、心の美醜、即ち良心そのものに於て
は根本的に異つたものであつて、良心の平行線が違つてゐるのではないかといふ事が考へられる
のであります。

それに就きまして例へば歴史を話してみますといふと、南北朝時代といふ時代があります。こ
の南北朝時代といふものは百五十一年間でありまして、この百五十一年の間に兩朝とも二十二三
人の帝王が替つてをります。これはその王様を倒して自分が王様の位を取る、その取り方が甚だ
非道いのであります。或ひは毒殺をして自分が王になるといふことをやります。屢々親父を毒
殺した者もあります。親父である王の政治が悪い、徳が足りないといつて子供が親殺しを行つて

平氣で後で自分が位に上つてゐる。どうも良心の機軸が日本人と少し違ふのではないか、此の時代には特に残酷な執虐が行はれたので、宋の順帝あたりは二度と王様といふ位地にはなりたくないといふので、「國後身世々勿復生天子家」と嘆じて悲鳴を掲げて居ります。それくらゐ非道い状況であつたのであります。かういふところをりまして始無森もなく青々した山もなく、たゞ滿目荒涼たる湖つちやけた禿山を眺め暮らし、日ねも茶釜を流したやうな河を見て居りますと、さういふ自然から人間性といふものがだん／＼魯鈍化され、人間に關連自由な氣持が無くなつて何んでも一つの型に嵌つたことでなければ仕事が出来ないといふ風な氣持に支配されるのではないか、それがために人間に意志的な徳性が去勢される結果、すべてが形式化され、すべてが規則づくめになり、人間の心といふものが自由に動かなくなるのではないか、とかういふことが考へられるのであります。

これは自然を考へますといふとまことに大きな問題でありまして、良心が違ふ、つまり美に對する觀念が違ひ、善に對する觀念が違ひ、また眞に對する觀念が違ふといふことは、民族としての道徳の必然性が異るといふ事になり、日本人が美である眞であるかと考へることが支那人には美であり眞であると考へられない。ロシア人が美であり眞であると考へることが必ずしも日本人は

さう考へない、各々民族としての道徳の必然性が異なるといふ事になるのであります。

ヴォルガ河の源を辿りしロシア民族

もう一つ例をとりましてロシアで申しますといふと、ロシアにヴォルガ河といふ河があります。この河は五千七百公里の長い河であります。それがロシアの平原をS字形に流れて居ります。日本の一番長い川、利根川に比較してみますと大變な相違があります。日本の利根川は、一番狭やかな川でありまして、三百二十キロ、さうしてその落差が約千二百米ぐらあります。ロシアのヴォルガ河は五千七百公里でありまして、その落差は僅々二百八十米であります。その流れ方といふものは寔に闊やかでありまして、川の流れがところ／＼で停頓してゐるやうなところが珍らしくないのであります。その川の流れを人間に比べますと日本人が六十歩歩くうちにロシア人は一歩より歩かないと云ふ體験性が計算されて参ります。ヴォルガの船頭で歌はれる様な闊やかさがロシアの中に滲つてそれがやがて斯拉ヴ性として人間に喰ひ込んで参ります。この河の濕潤性から、土地そのものに蓋ししても日本は二千五百年前に土の中からむくれ上つた土地であります。ロシアは三億五千萬年前の地層が少しも層序を亂さるゝやうな地變がなして堆積したところの土地でありますから火山もなければ地震もなく、山の高いものもなく見渡す限、際涯

もなく、森と雲畑ばかり続いてゐる草原極まる低平な臺地が三百里も五百里も続いてゐるのであります。際限のない廣漠、草原極まる變化のない自然が全土を掩つてゐるところがロシアであります。かういふところでは人間の意志や智力といふものが全然去勢されてしまひます。

●シアの人間といふものは、全く自然のままに動かされてゐながら、如何にも遲鈍に如何にも

草原に生活してゐる一方では全く狂的と思はれるほどの感傷が敏感に働きます。例へば今充ちてををつたかと思ふと次ぎの瞬間にはもう神の子のやうになる、初めて會つた人と居酒屋で如何にも楽しく一杯飲んでををつたかと思ふと次ぎの瞬間には直ちにその人を殺してしまつたりする。寔に始末のつかない神と野獸の兩極端性がスラヴ性の中には同様に居ります。

日本人は決してさういふ風な兩極端性といふものがありません。そこで私はもう一つ極端な例を日本の國の内求めてお話し申し上げますが、それは私が一昨年臺灣の蕃地を歩きました際、恒春といふ南の端れの町で聞いた實話であります。餘りにひどすぎる良心の問題に觸れたのであります。それは恒春の近くにカサギザンといふ蕃社がありました。この蕃社の蕃民教育に従つてをりました衛隊といふ巡査がをりました。この人は永年身命を賭して蕃民教育に従つてゐたの

であります。いよ／＼その努力が報ひられまして巡査部長に榮轉して行くといふことになつたのであります。さうして辭令も下りたのであります。何時まで待つても来ない。一週間経つても、十日経つても蕃社から出て来ない。どういふわけかと思つて行つて見ますると衛隊巡査の屍體が蕃社の入口の橋に横はつてをります。

あれほど蕃民に對して信望の篤かつた衛隊巡査、あれほど蕃民がなついてをつたのに、どうして殺して面も首を取つてしまつたか、これは重大な問題だといふことになりました。警察署、消防員、青年團といふものがすつかり憤激し武裝して討伐に向つたのであります。向ひますとカサギザンの蕃社はひっそり閉としてをります。さうして外から靜かに見るといふと、内に二三十人集まつてゐて靜かに帽子を被せたまゝの血だらけの首に向つてしきりに拜禮してをります。どうもどういふわけだか殆んど見當がつかない。それでその二三の者を表に呼び出してどういふわけだか聞かされたかといふことを訊きたゞしすといふと、あれくらゐ好い方は無い、あれくらゐ立派な方は無いと思ひます、實に私共は神とも佛とも頼んでをる人ですから、この儘お別れするに忍びない、體はお返し致しますからどうぞ首だけは取かして貰ひたい、さうして私共に拜まして呉れ、かういふ話でありまして、遂に振上げた刀が下ろせない、なんとしても討伐

することが出来なかつた事があるといふ話を聞いたのであります。かういふ風なのは餘り遠く過ぎて殆んどお話になりませんが、民族によつて良心そのものゝ平行線が違ふといふ例は教養に違ないほど薄山あるのであります。

六、天震地異が日本民族に與へし影響

日本は由來神々が奉めて下さつた神國であつて、神々の護り給ふ神國であると云はれて居りますから、其の意味で國民は神國民と云ふ事が出来る理であります。日本は元々神様が創らへ給ふた國であるといふことは何人も譲つてをります。これを歴史的に觀まするといふといろく／＼なことが考へられます。例へば暴風雨が日本に多い。地震が非常に多い、火山が非常に多い、かういふ一つの特殊の景觀があります。火山に致しますといふと、日本は爆發火山の絶對記録を保持して居ります。世界中に相當に爆發火山はありますが、其の中の六七％だけ日本が有つてをります。實に世界中の火山の六七％を日本一國で有つてをります。また地震もかなり多い、これによつて非常に多くの死傷者を出してをります。地震の回数に於いて世界第一であり、強烈度に於いてまた世界第一であります。關東震災の時に於きましては殊にひどかつた。この地震での死傷者

が世界中で一番多く殆んど四十萬に近い死傷者を出して居ります。

正確な記録がないので古い事は解りませぬが、日本は推古天皇の四年からはじめて記録があります。その記録があつてから阿蘇山が爆發し或は霧島山が爆發し、富士をはじめ二百七十餘山の火山がそれ／＼三十回、五十回、百回と爆發を繰り返して來たのであります。富士山に致しましても天應元年から今日まで十八回爆發致してをります。十八回の中で一番記録的の爆發は貞觀四年の爆發でありまして、この時に今の富士五湖が出來たのであります。それまではあの五湖と云ふものは無かつたのであります。さう云ふわけで火山の爆發が非常に多かつたと同時に地震の強烈なものも頗る多かつた。また颱風も多く、日本はこの颱風の被害も非常に多く蒙つてをるのであります。

この自然の規定性と云ふものが日本人の習性の上にどんな影響を與へて來たか、またそれらの習性が精神的に心靈的に日本人の精神文化の中に介入して文化的素因をなしてどんなものが創造されて來たかと云ふ事を考へますとこれは非常に難かしい問題であります。一つの例を歴史に依つて申し上げてみますると云ふと、日本書紀の卷二十二の卷にありませぬ推古天皇の項に「七年夏四月乙未、關西地震りて倉屋悉く破れぬ。關西四方に令して地震の神を祭らしむ」と云ふのが

ありまして、地震で家が破れて人心に恐慌を来たしたので、神を祭らしめたと言ふ事があります。さう云ふ例が古事記にもあります。また非常な颱風が起きてさうして古い時代の日本が不安のどん底に陥落したやうな場合にも神を祭ると云ふ事が行はれて居ります。

古事記を見ますと云ふと、倭日子ノ命の御世と申しますから天照大神の御世の事でありまして「天照大神に祀り、人民死せて盡きなんとす。ここに天皇怒ひたまひて、神代にまします夜、大物主ノ大神御夢に顯はれてのりたまはく、こは我が心ぞ」と云はれたので大物主ノ大神の後のやうな意多泥古と云ふ人に命じて神主として大神の御前を齋き祭ると云ふ仕事が行はれるとともに天ツ神と地ツ神即ち天神地祇の社を建てると云ふ事が行はれて居るのであります。御承知の通り天ツ神、地ツ神は日本の神社の大元でありまして最古のもので、この神を祭ると云ふ考へ方と神社を作ると云ふ考へ方が何を契機として生じたかと云ふ事を考へますと、日本の自然と疫病とか恐慌とか云ふ人心の不安を鎮める意味と連關して見て定に意味深いものがあり、私共には非常に興味深く考へられるのであります。

七、神を祭る精神と根本思想的思案

吾々日本人は勿論神といふものを信じてをりますけれども、然らば誰が神の意義をはつきり觀念として説明して下さつたかと申しますと、これにはいろいろ異説がありまして定に區々であります。本居宣長なども「自らは神と申す名の義は思ひ得ず」と云ふことを書いてをります。いろいろな方が神靈といふものに就いて考へてをられますけれども本當によく解からないのではなからうかと云ふやうな實際の狀態にありますけれども、私は偶然でありますがアイヌの言葉に神と云ふ言葉を澤山見出したのであります。勿論定説でもなんでもない一つの考へ方を御参考までに申す次第であります。今日吾々が呼び慣れてをりますところの富士或ひは利根など、云ふのは皆アイヌ語であります。フジは高い山と云ふ事でありまして、トネとは大きな川と云ふ事であり其の他ハラは平たい土地、タフゲ(峠)は山と山との間と云ふ意味であります。其の他固有名詞の上に残つて居りますアイヌ語は日本中に分布致してをります。

今日北海道のアイヌが熊祭を致してをりますが、この熊祭のことをカムイと申しまして、これは「犠牲」と云ふことであります。祭壇を設けて熊を一つの犠牲として奉る、その熊祭の行事をいはゆるカムイと云つて犠牲と云ふのであります。こんなことがフト考へられまして、日本民族と云ふものが今日どう云ふ風な系統に依つてこの島に來たかと云ふことを考へますと云ふと、い

ろく／＼な事説があります。朝鮮系が入つてをる、韓朝系もあり、ツングース系も、マレーポリネシア系も入り込んで居りますが、それ等は何れも日本といふ姉妹種の中にならぬ島に居住するやうになりますと皆一種に同様な民族として單一化されるのであります。紀元前六百六十年前に於きましては大和民族と申しますか日本人と申しますか、それが既に融合同化して一つの民族として鞏固な單一民族國家として發展段階に入つたのであります。而してこゝで一つのものがつちりと固まつてをる天孫族をはじめ出雲、土蜘蛛、熊襲、常世、蝦夷と云ふやうないろ／＼な種族が何れもそれ／＼の立場を有つてゐたのでありませうが、この島と云ふ特殊の景観が大きな増場のやうになつて何れもその中に溶け込んで、大和民族と云ふ特殊な民族を結成したのであります。イギリスに致しましてもスコットランドあり、アイルランドあり、イングランドあり、あらゆる民族がありますが、それが大きくアングロサクソンと云ふ單一民族として大同團結をしてをる、日本民族の祖先はどうであらうともさう云ふことには一向傾着することなく、日本列島と云ふ大八洲内に入つて、皆大きな増場に溶け込んで一致團結したところに大和民族が結成したのであると私は考へてをります。随つて先住民がどんな種類のものであらうと傾着しないのであります。アイヌ族が相當日本に廣い範圍に分布してゐたと云ふことははつきりした事實であります。

随つて私はこれに就いてかう云ふ風に考へてみたいと思つてをります。例へば日本には世界に類例の無いほど立派な姿を有つてをる富士と云ふ山、かう云ふ山は世界中に一つもありません。また地下三十哩ぐらゐ下の方から岩漿を湧き上げて来て眞一文字に力強く爆發して、その爆發した灰が靜かに落ちて来て滑つてをる圓錐形に聳え立つてゐるこの富士山のやうな山はコニーデ聖火山と云ふ山でありまして、日本特有のものであります。イタリーの火山にはそんなものは一つもありませんが、日本の火山にはかう云ふ風な火山が寔に多くあります。

何人でも日本人のみならず、アメリカ人でも支那人でもこの富士と云ふ火山を見た瞬間に、あんな山だと云ふやうな印象を受ける者は誰れも居りません。誰れでも一樣にあゝ綺麗だ、崇高だと云ふ感じを受ける事は確かな事實であります。これを私は支那人に見せましても綺麗だ、實に崇高な山だ、西洋人に見せましても實に良い山だ、崇高だと事實申しました。確かにこれは必ずしも日本人だけの感情ではない、さうしてこの富士に接した瞬間に日本人の氣持、崇高な感情がそこから増育されて来る事は動かす事の出来ない實際だと思ふのであります。かう云ふことを考へますと、富士一つの存在と云ふものは日本民族の上にとどのくらゐ大きな力を與へ、美の意識を増つて来たかと云ふことが瞭つきり致して參るのであります。

これは水が清冽な點に於ても同じであります。随つてそこから美はしい情操が日本の民族性として心に入つて来る。また悪い方面もあるかも知れませんが。さう云ふやうな意味からしまして、この災厄の方から申しますと云ふと、地震が非常にある、火山が爆發する、また颱風が多い、かう云ふ風な自然の現象がどう云ふ影響を興へたかと申しますと云ふも、そこに恐れ戦くところの非常に戦々兢兢たる氣持を興へてをったのではないか、人智と云ふもの、人力と云ふものを遙かに超越した自然に對する恐怖の念を有つてをるところの日本の古代の民族は、火山が爆發すると云ふやうなことの爲めに何とも云へないところの不安に襲はれたのではないか、さうした不安から、何か人間の力以外の強力なものに頼りたい、さうしてこの生活の安泰を圖りたいと思つたのではないか、かう云ふことが考へられます。

この強力な自然から取られてゆくとところの一つの命、これは人間が自然の犠牲になると云ふ風に考へたのではないか、これが先住民族であるところのアイヌ人に傳はつた今の熊祭の行事となつて居るのではないか、それが一つの過程ではなかつたか。併し考へて見ますと云ふと、日本の古代の民族がどん／＼次から／＼と失はれてゆく、これは到底如何に古代民族と雖も^比び得ない心となつて許すことが出来ない一つの困難ではなかつたか。これを克服する爲に人間的なモラル

な道徳的な情的な心がはじめて舞き出したのではないか、理性が舞き出したと見ても良いのではないか、さうして犠牲になると云ふ一つの強い積極的な意志が生れて来て、人の爲めに犠牲になると云ふモラルが人間的徳性の根幹をなしたのではないか、而してそれが犠牲者を神とし、神について行くと云ふ考へ方で傳づくとか、齋くとか、侍らふとか、祭らふとかいふ意識となつて自分も後からついて行つて犠牲になつて侍らひ齋くと云ふ風な思想が生れて来て、そこにはゆる報本反始の思想が覺在され、神に齋く行事が展開されて祭の精神となり、祭らふの道が民族最高の道徳として繼承されて来たのではないかといふ事が考へられるのであります。

この本に報ひ始めに反るといふ報本反始の思想、この犠牲の精神といふものは日本の古い／＼悠久の昔から連續したところの一つの民族意識と存するのであります、物事をかういふ風に考へて見ますといふと、日本民族が神を創造したところの理念といふものがなんとなく疎つきり掘めるやうな氣がするのであります。例へば一切己を空しくして、さうして個々としての自分といふものを犠牲にして犠牲者に齋くといふ考へ方、そこからはゆる殉ずるといふ考へ方が生れて来る。長多いが皇祖皇宗の御靈に殉ずる道は齋ひ祭るといふ天皇の道となり、國民が一天萬衆の上御一人に殉ずる道も齊しく、傳づき、齋つき、侍らひ、殉ずるといふ絶対犠牲の道に他な

らないのであります。

従つて吾々は全的に犠牲となつて、天業恢弘に捧げ給ふ上御一人の御負擔を何分でも齊しく絶對犠牲の心を以て負擔してゆくといふ事でない、聖國のモラルとは合致しない事になると考へられる理であります。さういふ風でありますから報本反始の思想といふものは、驚く可き古い時代から日本民族の潜在意識となつてを、神を祭るといふ意念となり、また道德の根幹を成して来たといふ事が私には最も強く考へられる次第であります。

この點に就ては勿論御異存がござらぬが、この犠牲意識といふものが道徳化したところの一つの思想、それが報本反始の思想であり、さうしてこの報本反始の思想がいよいよ神様の創造の意念になつて發展して来て、神に奉仕する道がいよいよ随神の道で、惟神道として實踐され、絶對犠牲を内容とした神の循環輪廻の思想が思想化されなまゝ所謂「言あげ」されなまゝに三千年踏襲されて来た。さう致しますと神を反省の對象として仕事を致します事が日本民族と致しましての道徳上の絶對必須の必然性ではないか、かういふ風に考へられますといふと、日本の神様といふものは實に萬邦無比である、これより外に日本民族の道徳の必然といふものはないといふ風に私は考へて參つたのであります。

八、世界に冠絶せる日本國體の尊嚴性

この神様の問題は非常に面倒な問題でありまして——神様の問題と云ふのは定に長多いことではありますが、神に對する日本民族の信念といふものは、形は變りましても國體の上では一つになつてをりまして連絡として續いてをります。それが外來思想に依つて攪亂されましたのが、その最初が神功皇后の三韓征伐であります。その次に佛敎の傳來であります。また最近に於きますといふと個人主義的な外來思想でありますが、さういふ思想が入つて来て攪亂せしめられます毎に、必ず一たび萬葉の上御一人が眞先きに詔勅を賜つて、さうして國民の祭りの精神に就て意識の更生を圖つてをられます。例へば佛敎渡來によつて固有の惟神道が否棄されて純日本的な思想が動搖を受けますと推古天皇が長らくも「朕が世に當り、神祇を祭祀すること豈に怠るべけんや」と仰せられて神祇祭祀の詔を下し賜はつて國民の敬神の觀念に若返りを行はせられます。

また明治天皇に於かせられましたは、王政復古の際に一番御尊念あらせられましたことは、祭政一致を如何にして圖はしてゆくかといふことであつたのではないかといふことが御下問書其の他から拜察さるのであります。明治天皇は明治四年四月三日と記憶致して居りますが、三條公

を召されまして皇道興隆の御下問書を賜つたのでありますが、その御下問書を拜讀致しますと如何に明治大帝が祭政一致の國家的精華を治教の上に明らかにされんと思召されたかといふ事が拜察されまして私共はたゞ／＼恐懼措く能はないものがあるので御座います。それは「今度祭政一致、天祖以來固有の皇道復興あらせられ億兆の蒼生報本反始の義を重んじ、敢て外誘に慥惑せられず方爾一定治教浚洽候様遊ばされ度思食候」といふのでありまして、これを御躬みづからお書き下さいまして三條公に賜つたのであります。三條公は恐懼それを押敢きまして、さうして太政官會議の第一號としてこの深い思召を強調致したのであります。これは太政官日誌に出てをりませぬけれども、日本のお上に於かせられましては如何なる場合に於きましても自分は斯く／＼思ふといふことは仰せ出だされません。必ず第三人稱とでも申し上げ可き御言葉を賜はるのであります。それは神の御位に於いてなされませぬ事でありまして、日本の天皇に姓氏がないと云ふ事實は定に神の御位でありまして神に姓氏がないと同様であると存するのであります。

日本は神國でありまして、天皇の位は神の御位であり、天皇が高御座に昇らせ給ふといふことは實に上陛下御自身に於かせられましても神であるといふ一つの御信念を以て總てを行はせられるのであるといふことが、列聖の御宸翰や御詔書を拜讀致しますと瞭つきり致して參るのであり

ます。それでかういふ風に、自分は斯く／＼思ふといふことは仰せられませんで、「お上に於かせられましては斯く思食遊ばされ候」といふ直き／＼のお言葉となるのであります。こゝは日本人が最も強く考へなければならぬと存するのであります。天皇の御位は至上至善の神の御位である、神は絶対的で一元的で一切の對立觀念を拂ひ切つた境地であります。従つて國民が天皇に統率さるゝといふ事は一切の對立觀念を拂つた満御であり、隨順でありまして、一切を捧げて御奉るといふ一元化の道徳が日本國民の眞の道徳となるのであります。

歴史の上からこれを考へますに、天皇の御位は全く人間的な意志といふやうなものを一切拂ひ切つたところの實に有難い神そのもの、といふ御境地にをられますので、日本の天皇は洵に上御一人であらせられるのであります。日本帝國が道徳的に考へて全く至上至善の神の御位に就かせられて居られます天皇によつて統治されてゐるといふ事が、眞に世界萬邦に冠絶してゐる神國日本の偉大なる道徳國家の面目でありまして、天皇の御名に於て行はせられます一切の仕事は悉く神の命する御神旨であり、御神慮であると云ふ意味に於きまして、輔弼の重責もまた等しく加重さるゝ次第であります。

日本國民が一切を捧げて上御一人に歸し奉るといふ考へ方は、これは西洋流の全體主義といふ

やうな考へ方とは全く道徳上の觀念が違ふのでありまして、吾々が自分といふものを理解する場合に於きましても、自分は單に自分一個の存在ではない、自分は國と共に歩いてゐる、吾々の國家は至上至善の神であらせらるゝ天皇に大きく統一されたところの普遍の大生命といふものがここに礎石としてゐる。天照大神から天業として繼承されてゐる八柱一字の神慮天職が礎石たる大生命となつて天皇によつて代表せられてゐる。吾々國民は天皇の負はせ給ふこの大生命といふものを、分に應じて成し遂げてゆく光榮を擔つてゐるのである。それが御神威を顯彰するといふ眞の意味である。といふやうに自分を理解してゆくことが一番實際に近い道徳的な考へ方であると同時に、吾々の奉行といふ仕事の意味が瞭つきり解かるのではないかと存するのであります。

それに依つて我れといふものを考へますと、我れといふものをこの國から離し、天皇から離して考へますといふと恰も逃げら同様の存在となつて全るで無價値なものになるのであります。そこに萬邦に冠たる一元民族としての日本人の偉大性があり、絶對不可侵の尊嚴性があり、一切を一元化すると云ふ日本特有のモラルがあると私は固く信ずるのであります。そこで始めて例令身は九尺二間の裏面に居りましたもその大神が國家の大きな統一された生命の一部として自分に顯はれてゐるのであります。かういふ意味で自分を理解しました時、はじめて自分の生命といふ

ものに無限の尊嚴性があるといふことが解りますと共に、一切これを一天萬業の上に捧げまつるといふ精神が一元化する道徳の極致たる所以をなすのであります。それでなければ自分といふものゝ値打といふものは一つも現はれて参りません。

今日では個人主義的全體主義も日本のやうな一元的分應主義も同じやうな全體主義に考へられる方もないではありませんが、一つの特殊な個人主義から出發したところのドイツ民族あたりの考へ方、即ち個人といふものを國家の有機的、組織的細胞とする全體主義と全く變つてゐる點は、一は力と血で結合して行かうとする考へ方であり、日本のは神で代表さるゝ天皇が負つて居られる國家の最高の道徳的の義務を國民がみな分に應じて負擔してゆくといふ光榮を有つと云ふ觀念に根本的の差があると存するのであります。

九、論 論

大變長い間とりとめのないやうな話を申し上げてまことにお判り難かつたと存じますが、要旨は大體自然といふものが民族の習性の上に及ぼす影響から考へまして、その習性が道徳の基調を成し、さうして精神的に素因をなして民族文化、民族精神といふものが特殊化され

つゝ發展してゆくといふ理論を申し上げたのであります。随つて日本獨特の精神、日本特有の文化は日本の大自然に規定されてゐるものであると云ふ點が極めて多いと云ふ理由をお話し申し上げた次第であります。

そのやうな理論を以て推し進めてゆきますと人類永遠の福祉といふものを決定的たらしむる眞理を歴史の上のみ建設せんとする努力は妥當ではなく、自然に規定されてゆく方面を見直さなければならぬ。でありますから、イギリスで發達する思想なり制度を其のまま日本に持つて来て、直ぐこれを借入れて間に合はせる、ロシアに發達するところの思想を直ちに日本に持つて来て、直ぐこれを借入れて間に合はせるといふやうなさういふ不見識では、全く自己の本質的生命の眞理性、國家の眞の意味の發展はあり得るものではないといふやうな意味でお話し申し上げましたわけでありませう。大變長い間の御清聴を感謝致します。

(丁)

390
13

昭和十四年六月三日印刷
昭和十四年六月五日發行

版權
所有

風土と民族性に就て

【譯 賣 品】

東京市赤坂區青山南町二ノ六三
發行所 渡 邊 卓 俊

東京市芝區田村町六ノ一三
印刷所 日本協會印刷部

東京市赤坂區青山南町二ノ六三

發行所

日本協會出版部

電話青山四(六九一五番)
四九七八番
振替東京一〇七、九三〇番

萬推會協館書國

最新住宅讀本

著保善尾平 長會社會物建話電本日

益々好評

遂に第十版突破!

懇切平易な文章と云ひ、著者苦心蒐集の住宅寫真と云ひ、日常生活に就て餘りにも直實便利な書である爲に誰しも讀んで思はず読書の樂をあげるであらう。殊に長期建設に邁進する今日各階級の人々は家庭生活の必須の書として座右に置すべきからざるものが本書である。

読者の言葉を寄せられた諸名士

- ◇題字◇ 藤野野矢
- ◇序文◇ 藤野野矢
- 林 雄十郎 大井啓太郎 西岡鶴生 武田建爾 村岡花子 佐藤武夫
- 山本英輔 小林政一 式部三郎 藤澤得三 三浦元 中
- 廣田眞直 藤島國助 高島三郎 内田多伸 尾上菊五郎
- 百野雄次 藤井孝子 大島亨 久米正雄 安井哲子 (敬請)
- 西園信子 太田正孝 西川英治 (敬請)

全國書店にあり

發行所 日丁七番地東京市京橋区
 郵政出版物局電話本日本
 番一〇五七三一家電掛

三國五十二
 號二十二地内科産
 號二十六 編・研・特・基

一巻内編一
 定價紙幣・人幣・紙幣一紙長
 名額紙幣・人幣・紙幣一紙長
 一ア・價十六百七紙幣人幣・紙
 紙幣一紙長